

福島東高等学校創立三〇周年記念式典が開催されました。そして、2011・3・1たな。まさに国難の渦中に三十一年目を踏み出ことになりました。

私は七年前、浪江町に住んでいました。請戸漁港からの海の幸、津島からの山の幸、温かで穏やかな優しい方々との出会い



福島東高等学校同窓会会長

生きてきた力、生きていいく力

尾形 幸男

により今の私が存在しています。

地域や住民がそこにいることで歴史が生まれ、目に見えない大きな一体感で日々の生活が当たり前のように成り立っています。しかし、あの震災で全ての力は分散されただけでなく、原発事故により一つに集まるこそえも許してもらえない先行き不透明の状況が続いています。

今、多くの人々は「自分には何ができるのか」を真剣に考えながら生活しています。自らも日々精一杯の生活であるのに、支援について気にかけているの

です。「当たり前のありがたさ」を身をもって感じ、「当たり前が当たり前にならない」現実と非現実が交錯し、行き場のない怒りの中で生きているのではないか。

被災者の方々の言葉でよく耳にするのが「それでも、生きていかなければならない」「生き残った我々の使命」というもの。震災から八ヶ月が過ぎ、福島人はあらゆるツールで、前を向こうとしています。私の知り合いは、福島第一原子力発電所で働いていましたが、爆発後の四月には復旧作業に戻りました。その理由は「早く家族で浪江に戻りたい。自分が手伝うことで、少しでも早く復旧できればいい」。家族の傍で家族を守るのではなく、家族の為に家族から離れて、危険と隣り合わせで働く彼の決断、そして彼を支える奥様の想いを察し、私は、



発行 福島東高等学校同窓会
住所 福島市浜田町12-21
(024) 531-1551
尾形 幸男
三浦 賢一先生
福島同窓会事務局
人字集 妻 印刷
題編 印刷

何も言つことができませんでした。多くの方々はどん底の中で、家族、親族、友人、仲間、仕事、趣味、音楽、観光、スポーツ、笑い等を心の支えにして、生きているのです。

今回の歴史的な大震災は、我々から全てを奪いました。しかし、我々はある時から、感じたこと、学んだこと、伝えなければならないこと、「絶対」はないこと、優しさは日に見えること、涙は枯れること、必ず明日は来ることを自然から教わりました。

明日の為に、子どもたちが希望、そして未来を感じられるような雰囲気を作り出すことが今の時代に選ばれ生きている大人の役割なのだと思います。今までの大人たちが時代の中で忘れてきたものを再確認し、次世代に生きる子どもたちに、しっかりと道筋を立てていくことが、我々の責任なのではないでしょうか。

我が母校でも、少なからず変化はあったと思います。グラウンドは除染作業を行い、授業や部活動にも支障があつたのでしょうか。相双地区からの転入生も多く、来年度は一クラス増えるこ



挨

抄

福島東高等学校長 田村秀夫



八月一日に着任しました校長の田村秀夫です。会員の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

福島東高校におきましても、私は、「若者は国の宝である」という考え方で、勤務しております。

将来の国を創るのかその国の若者であり、国民は若者に大いなる期待を持つています。イスラエルや韓国において、特に若者に期待することは国防であり、アラブの国々においては、國の民主化でしょう。日本において若者に期待することは、「日本人が国際社会において名譽ある地位を占め、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する」ことであると考えています。日本の人口は世界の二パーセント、国土はわずか三パーセントしかあ

モットーに充実した学校生活を送っています。着任以来生徒から感動を受けることが多くあります。今年度の二年生は修学旅行で沖縄に行つてきました。生徒は学習活動の一環として、一般家庭に宿泊する「民泊」を初めて体験しました。広い会場で本校生と迎えに来てくれたホストファミリーの方々とのセレブ二ーがあり、その後各グループごと宿泊先が発表され、そこで対面となりました。生徒にとつ

のがあります。急速な発展を遂げる国際化の中、本校卒業生が国際社会の動きに深い関心を持ち、日本ばかりか、世界の将来を担う若者となることを願つて

りませんが、経済力は中国に抜かれても世界の生産力の一五%に達すると言われています。大きな経済力を持つ日本に対する

ての初めて民泊はどうかとやや不安な目で、お互いの出会いを注視していました、「案する

ての初めて民泊はどうかとやや不安な目で、お互いの出会いを注視していました、「案するより産むが易し」そのものでした。そこには、笑顔で迎えるホストファミリーに「よろしくお願いします」と元気に挨拶する本校生の姿がありました。お互に頭を下げるグループや握手をするグループと様々で、一台一台迎えに来た車で各家庭に出発していきました。翌日別れる時には、名残惜しそうにしているグループがたくさんありました。素直で、礼儀正しく、元気よく挨拶する本校生に接することは、ホストファミリーの方々にとっても大きな喜びでもあります。生徒一人一人は東日本震災の影響を受けています。心中も大きな傷を持つていると思います。でも悲しみなど一切見せないで頑張っている、福島から来た若者に沖縄の方々も感動したのです。帰校後、沖縄から本校生全員分のお菓子のプレゼント、義援金、励ましの手紙が届きました。

大学受験対策一色となっていました。暖房がまだ入らない十一月の寒い日のことでした。課外に使わない教室で自学自習をしている生徒に「頑張つてるね！風邪引かないようにね。」と声をかけると、驚いたことに、どこの教室でも同じように生徒が「ほい！ ありがとうございます。」と応えてくれたのです。この「ありがとうございます」という返事は一体どこから来るのかと思いました。これには部活動練習の教育効果によるものが大きいと考えます。本校生は部活動練習の挨拶、顧問の先生に対してもの挨拶、各種大会での挨拶、宿泊先での挨拶をしています。文武両道の本校で、東高生は何度となく「ありがとうございます」という挨拶をしているのです。

沖縄での挨拶も教室での挨拶も生徒から自然に出た言葉です。勿論生徒が大切に育てられている家庭での大きな教育力があると思いますが、今まで築き上げられてきた本校の伝統も大きな力となっています。学校の校風は一年、二年で変わるものではあ

りません。毎年新入生は入学してから多くの先輩の姿を見ています。そして東高生として自分はどうのよに振る舞い、どうのよな高校生活を送るかを決めているのです。それがもう三十年以上も続き、これからも後輩へと引き継がれることでしょう。本校の素晴らしき伝統の一つであるこの挨拶、一年生にて、そして新しい後輩へ確実に引き継がれます。挨拶という素晴らしい伝統を築き上げてくれた同窓生の皆様に改めて感謝申し上げます。



福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]

第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]

第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。

1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会員]

第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役員]

第5条 本会に次の役員をおく。

1. 会長 1名
2. 副会長 4名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名

第6条 役員の選出は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]

第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総会]

第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。

1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。

第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]

第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。

第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]

第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。

第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会計]

第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。

第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成23年度 岁入歳出予算書

歳入金額 3,250,000円
歳出金額 3,250,000円
差引残額 0円

1. 岁 入

▲は減少 単位：円

項目	当初予算額	繰入額	現計予算額	決算額	増 減	備 考
入会金	636,000	0	636,000	632,000	▲4,000	2,000円×316人
会費	954,000	0	954,000	948,000	▲6,000	3,000円×316人
前年度繰越金	23,428	0	23,428	23,428	0	
雑収入	2,572	0	2,572	30,745	28,173	預金利息、寄附など
同窓会積立金	1,100,000	0	1,100,000	1,100,000	0	定期解約時利息分を含む
東高応援基金	0	0	0	0	0	平成21年度東高応援基金は30周年募金に
合計	2,716,000	0	2,716,000	2,734,173	18,173	

2. 岁 出

項目(科目)	当初予算額	流用額	現計予算額	決算額	残 額	摘 要
総務費	110,000	0	110,000	73,238	36,762	
会議費	20,000	0	20,000	0	20,000	役員会旅費
旅費	10,000	0	10,000	4,000	6,000	入学式・卒業式等の役員旅費
需用費	80,000	0	80,000	69,238	10,762	用紙代援助
総会費	0	0	0	0	0	
運営費	0	0	0	0	0	総会運営費
事業費	310,000	100,000	410,000	397,150	12,850	
卒業記念品費	220,000	▲10,000	210,000	205,400	4,600	卒業証書ホルダー
広告費	90,000	110,000	200,000	191,750	8,250	野球、サッカー、駅伝、30周年記念式典の応援広告
会報費	550,000	0	550,000	500,000	50,000	
印刷費	550,000	0	550,000	500,000	50,000	会報・封筒・返信ハガキ印刷費
通信費	745,000	▲100,000	645,000	50,385	594,615	
会報郵送費	610,000	0	610,000	16,700	593,300	会報郵送料、封入作業補助(豪雪のため次年度発送)
情報保護費	100,000	▲100,000	0	0	0	返信用個人情報保護シール代
通信費	35,000	0	35,000	33,685	1,315	理事会・30周年記念実行委員会の連絡等
在校生支援費	1,000,000	0	1,000,000	945,780	54,220	
在校生支援事業	1,000,000	0	1,000,000	945,780	54,220	体育施設(校庭土)整備、部活動支援、全国大会激励金
公開文化祭後援費	0	0	0	0	0	公開文化祭後援
予備費	1,000	0	1,000	0	1,000	
合計	2,716,000	0	2,716,000	1,966,553	749,447	

*項目科目間の流用を認める。

1. 岁 入

▲は減少 単位：円

項目	23年度予算額	22年度予算額	比較増減額	備 考
入会金	632,000	636,000	▲4,000	2,000円×316人
会費	948,000	954,000	▲6,000	3,000円×316人
前年度繰越金	767,620	23,428	744,192	
雑収入	2,380	2,572	▲192	預金利息など
同窓会積立金	900,000	1,100,000	▲200,000	定期預金を解約して補助
東高応援基金	0	0	0	平成22年度東高応援基金では30周年募金に
合計	3,250,000	2,716,000	534,000	

2. 岁 出

項目(科目)	23年度予算額	22年度予算額	比較増減額	備 考
総務費	110,000	110,000	0	
会議費	20,000	20,000	0	役員会旅費(2回)
旅費	10,000	10,000	0	入学式・卒業式等の役員旅費
需用費	80,000	80,000	0	紙代・コピー代
総会費	50,000	0	50,000	
運営費	0	0	50,000	
事業費	304,000	310,000	▲6,000	
卒業記念品費	220,000	220,000	0	卒業証書ホルダー
広告費	84,000	90,000	▲6,000	野球、サッカー、バスケット、駅伝等の応援広告
会報費	550,000	550,000	0	
印刷費	550,000	550,000	0	会報印刷代
通信費	1,235,000	745,000	490,000	
会報郵送費	1,100,000	610,000	490,000	会報発送(今年度は2回発送予定)
情報保護費	100,000	100,000	0	個人情報保護シール
通信費	35,000	35,000	5,000	返信費、切手
在校生支援費	1,000,000	1,000,000	0	
在校生支援事業	1,000,000	1,000,000	0	年額100万円の支援
公開文化祭後援費	0	0	0	3年に1度の公開文化祭を支援
予備費	1,000	1,000	0	
合計	3,250,000	2,716,000	534,000	

*項目科目間の流用を認める。

協賛者名

()は卒業期
()は旧姓

○「東高応援基金について」

輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まりました。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いします。同封した振込み用紙にてお願いします。その際、おわりになつていれば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたつて福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

なお、ここ数年にはたつて福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

(1) 尾形信裕(1) 木村浩一(1) 後藤佳宏
(1) 西山尚利(1) 原田克典(1) 尾形幸
男(1) 三浦信彦(1) 阿部宗弘(1) 佐藤

次(10)加藤剛(10)三浦和幸(10)小野洋
正(10)林容市(10)栗花茂雄(11)佐藤智
顕(11)清野貢央(11)根本一幸(11)宮崎
川勝庸史(13)佐々木達(13)本多真史
(13)熊田教平(13)安田裕(13)石川亨(13)
岡部樹(13)佐藤幸樹(14)松野哲郎(14)
三浦洋平(14)菅野洋和(14)三浦康實
(14)曳地賢治(14)橘内義知(14)小山晃
(14)宮本教広(14)渡辺秀一(15)菅野達
樹(15)菅野元樹(15)高橋智典(15)阿部
裕一(15)齋藤訓朗(15)齋藤聰(15)菅野
貴之(15)柘植健至(15)守山直樹(15)鈴
木尚也(16)内谷沙也(16)橘内(16)逸
見智則(16)佐藤理江(16)太田幸二(16)
安倍利雄(16)茂木貴光(16)阿部信一
(17)加藤友幸(17)鳴井靖子(川勝)(17)
齋藤真由美(大友)(17)尾形真希(17)
上杉光成(17)菊池七重(18)尾形浩(18)
駒木根絵里(18)佐藤まゆ子(18)谷内
雅一(18)根本元徳(18)遠藤文敬(18)笠
原弘毅(18)湯野川賢一郎(18)塙野敏
恵(19)渡邊祝子(19)蓬田史徳(19)浅川
吉徳(19)浅川吉和(19)佐藤翔太(19)渡
邊舞(20)橋内基純(20)齋藤勝敏(20)
瓶真人(20)笠原敬男(20)齋藤広彰(20)
佐藤和美(20)鈴木恭平(21)野津智華
子(21)伊達孝浩(21)山尾妙子(21)菊池
幸世(21)山本拓也(21)荒昌範(21)小林

小島圭史⁽²⁷⁾小野貴史⁽²⁷⁾川口真⁽²⁷⁾
希⁽²⁷⁾間船巧⁽²⁷⁾渡邊兼人⁽²⁷⁾佐藤
佐々木孝智⁽²⁷⁾佐藤芳哉⁽²⁷⁾畠彩乃
可子⁽²⁷⁾柳田成美⁽²⁷⁾片平陽大⁽²⁷⁾佐
藤香⁽²⁷⁾久田義人⁽²⁷⁾渡邊由貴⁽²⁷⁾太
田亜純⁽²⁷⁾笠原聰⁽²⁷⁾菊地悠介⁽²⁷⁾小
関大博⁽²⁷⁾根本明大⁽²⁷⁾鹿野雅之⁽²⁷⁾
三浦翼⁽²⁷⁾奥山朋世⁽²⁷⁾菅野貴徳⁽²⁷⁾
塙谷昌之⁽²⁷⁾丹治寛佳⁽²⁷⁾野地千尋
岩瀬里実⁽²⁸⁾栗城康佑⁽²⁸⁾佐藤耕
一⁽²⁸⁾関川崇⁽²⁸⁾笛村茂人⁽²⁸⁾霜多英
恵⁽²⁸⁾三浦宗悦⁽²⁸⁾畠和徳⁽²⁸⁾舟生優
紀子⁽²⁸⁾目黒啓介⁽²⁸⁾山本伸洋⁽²⁸⁾渡
邊匠⁽²⁸⁾角田友希⁽²⁸⁾佐藤真美子⁽²⁸⁾
佐藤恵⁽²⁸⁾大和田善愛⁽²⁸⁾橋内寛人
黒田耕平⁽²⁸⁾山崎勇貴⁽²⁸⁾遠藤俊
平⁽²⁸⁾岡崎綾奈⁽²⁸⁾木村暁⁽²⁸⁾小関裕
貴⁽²⁸⁾佐戸川伸弥⁽²⁸⁾澤井友平⁽²⁸⁾加
藤曜⁽²⁸⁾佐久間敏弘⁽²⁸⁾関根真衣⁽²⁸⁾
菱沼康平⁽²⁸⁾吉田雄基⁽²⁸⁾渡邊ちひ

に振り込みがあつた方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年
学級数 卒業者数	6 (281)	6 (265)	6 (262)	6 (283)	8 (365)	8 (361)	8 (372)	8 (376)	9 (427)	9 (423)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278

卒業年度	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年
学級数 卒業者数	9 (431)	9 (421)	9 (408)	9 (403)	8 (357)	8 (354)	9 (351)	9 (354)	9 (362)	9 (350)
国公立大	109	96	109	85	109	113	114	145	150	115
私立大	291	333	299	418	413	327	313	311	346	349

卒業年度	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年	26期 H19年	27期 H20年	28期 H21年	29期 H22年
学級数 卒業者数	9 (358)	9 (359)	8 (314)	8 (316)	8 (318)	8 (313)	8 (310)	8 (307)	8 (316)
国公立大	165	153	154	171	126	139	165	115	134
私立大	247	248	305	322	329	351	240	284	265

(表1)

■大学別合格者数 (平成22・21・20年度入試)

	大学名	平成22年度生	平成21年度生	平成20年度生
国 立 大 学	帯広畜産大	0	0	1
	北教函館大	0	1	0
	室蘭工業大	0	0	1
	弘前大	2	2	1
	岩手大	2	1	3
	東北大	4	5	10
	宮城教育大	0	0	3
	秋田大	2	5	6
	山形大	17	9	15
	福島大	50	27	51
	茨城大	4	5	11
	筑波大	1	0	3
	宇都宮大	3	7	8
	群馬大	2	0	0
	埼玉大	6	5	9
	千葉大	2	5	2
	東京学芸大	1	0	1
	一橋大	0	0	1
	横浜国立大	2	0	1
	上越教育大	1	0	0
新潟大	4	5	6	
富山大	2	2	2	
青森県立保健大	0	1	0	
青森公立大	0	2	0	
岩手県立大	2	2	0	
宮城大	2	0	5	
秋田県立大	2	4	1	
国際教養大	0	0	2	
会津大	2	2	1	
県立医大(看護)	4	4	3	
前橋工科大	1	0	0	
高崎経済大	6	10	3	
埼玉県立大	1	1	0	
千葉保健医療大	2	1	0	
首都大学東京	2	2	0	
横浜市立大	0	1	0	
神奈川県立保福大	0	0	2	
都留文科大	1	1	0	
その他	4	5	11	
計	134	115	165	

現役大学等進学率…平成22年度生(75.0%)、平成21年度生(73.6%)、平成20年度生(90.6%)

(表2)

進路指導主任
渡邊 幹男

二十九期生の進路状況について
説明いたします。
まず、二十九期生にとって非
常に残念だったことは、震災の
影響で、国公立大学の後期試験
が中止、延期、センター試験と
調査書で合否判定、といった措
置がとられ、「後期試験まで頑
張り続けて合格を勝ち取る東高
の戦い」の場が奪われてしまつ
たことです。例年ですと、後期

試験で二十五～三十五人の合格
者を出していくだけに、受験さ
えできずに合否を決められてし
まうことは、受験生にとって大
変悔しかつたのではないでしょ
うか。
さらに、センター試験が易化
し、東高生にとって追い風とな
るかと思いましたが、意外と苦な
戦うことになってしまいまし
た。AO・推薦入試に出願する
よりも、受験勉強を最後までやつ
て、学力で勝負する一般入試に
たどり着いた学生たちも多
くの生徒が臨んでいた学年だ
ました。特に関東圏の国公
立校の受験者にとっては、高い
レベルでの戦率立が大

	大学名	平成22年度生	平成21年度生	平成20年度生
私 立 大 学	東北学院大	49	46	43
	東北福祉大	20	26	16
	東北薬科大	2	1	3
	獨協大	5	8	1
	文教大	1	8	0
	青山学院大	5	1	4
	学習院大	0	0	1
	北里大	1	0	0
	國學院大	1	1	3
	國立館大	2	0	0
	駒澤大	1	2	4
	芝浦工大	1	2	6
	成蹊大	0	1	1
	成城大	0	1	2
	専修大	1	3	3
	大東文化大	3	2	2
	拓殖大	0	2	2
	中央大	2	6	4
	帝京大	3	4	3
	東海大	7	10	4
	東京電機大	2	2	2
	東京農業大	13	2	4
	東京理科大	2	2	3
	東洋大	9	8	7
日本大	12	18	23	
法政大	5	10	5	
武蔵大	0	1	1	
東京都市大(武蔵工大)	1	0	0	
明治大	4	4	4	
明治学院大	3	1	0	
立教大	1	1	1	
早稲田大	1	0	0	
神奈川大	7	6	5	
同志社大	0	1	0	
立命館大	1	1	0	
その他	100	107	86	
計	265	284	240	

を強いられたことになりました。

しかし、さすが東高生です。

福島大学の合格者は五十人、山形大学の合格者は十七人でした。

ちらも県内トップの人数でした。

既卒の浪人生も一年間の苦労に耐えて二十三人が国公立に合格し、震災前には明るい笑顔で報告に来てくれました。

大学では震災のため、入学式を一ヶ月後に延期したり、入学式を文章で通達したりするところもあつたようです。ですから、入学までの間、一時避難所となつていた東高に、ボランティアでかけつけてくれた二十九期生も心やさしい二十九期生がそれぞれの新天地で活躍されることを祈っております。

今年の三年生の三十期生は、震災の影響にも負けず、進路目標実現に向けて、今、頑張っています。

これからも東高生への応援よろしくお願いします。

これまでの相互意見交換・共通理解

（2）二十九期の基本方針

（1）二十九期の基本方針

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

守

平成23年度 部活動報告

●運動部

弓	女子個人 梅津未希子	中村隼 東北選手権準優勝
	全国高校総合体育大会 男子個人 中村隼	1回戦敗退 ベスト32
	県北予選 男子団体 4位	
	県大会 男子団体 1回戦 福島東2	
	2会津工 (本数勝ち)	
	3回戦 福島東2	
	福島東3 1日大東北	
	準決勝 福島東0	
	5湯本 2相馬	
	(東北選抜大会出場権獲得) 男子個人 中村隼 ベスト8	
	第3位 第24回東北高等学校剣道選抜 優勝大会 平成23年度県北高等学校冬季 剣道選抜県北地区予選 予選免除 平成23年度福島県高等学校 剣道優勝大会 地区予選 福島県高等学校体育大会県北	
女子 佐藤春香 萩原夏美 武石春菜 清水秀計 (3年)	男子団体 佐藤雄斗 今野弘樹 斎藤直人 佐藤拓磨 赤清菅野 石澤伸 伊藤真奈 梅宮華 1位	男子団体 佐藤雄太 今野直人 斎藤弘樹 佐藤拓磨 今野直人 赤清菅野 石澤伸 伊藤真奈 梅宮華 3位

女子	【シングルス】	原田 駿・梅宮和真 桑島貴嗣・荒川皓哉 野地大介・野地絃太 以上県大会出場
第3位	第1位	高橋誠果
第5位	第2位	三浦依莉
第7位	第3位	菅野佳奈
16位	第5位	矢吹捺美栄
女子	【ダブルス】	
第1位	第1位	高橋誠果・三浦依莉
第2位	第2位	狩野佳奈・齋藤松実 以上県大会出場
男子	【学校対抗】	
福島県高等学校	2回戦	0 清陵情報
男子	3回戦	0 いわき光洋
福島県高等学校	準々決勝	2 0
男子	準決勝	1 碓城
男子	決勝	0 0 郡山
男子	(東北大会出場)	2 安積
女子	【シングルス】	
第5位	第3位	梅宮和真
第7位	第5位	原田 駿・梅宮和真
野地大介・野地絃太	ベスト16	桑島貴嗣・荒川皓哉 ベスト16
女子	【ダブルス】	
第5位	第1回戦	2 0 勿来
第7位	2回戦	0 いわき光洋
野地大介・野地絃太	準々決勝	2 0 会津
女子	【学校対抗】	
第5位	準決勝	1 2 高橋誠果
第7位	決勝	1 2 三浦依莉
女子	【ダブルス】	
第5位	準決勝	1 2 狩野佳奈
第7位	決勝	1 2 高橋誠果
女子	【シングルス】	
第5位	第1回戦	2 0 勿来
第7位	2回戦	0 いわき光洋
野地大介・野地絃太	準々決勝	2 0 会津
女子	【ダブルス】	
第5位	準決勝	1 2 狩野佳奈
第7位	決勝	1 2 高橋誠果

【学校対抗】

女子	紺野晏利・清野晃嗣
【個人戦ダブルス】	
優勝	高橋誠果・矢吹捺美
ベスト8	天野百美香・伊藤真理奈
福島県高等学校体育大会東北 大会出場者	【個人戦シングルス】
男子：個人	優勝 天野百美香
女子：個人	優勝 矢吹捺美
男子：個人	200M 自由形 薄園香
女子：個人	200M 自由形 市川沙幸
男子：個人	400M 個人メドレー 三瓶真琴
女子：個人	400M 個人メドレー 三瓶真琴（第3位）
男子：個人	佐藤匠、三瓶悠斗
女子：個人	佐藤匠、三瓶悠斗
男子：個人	田中信顕
女子：個人	田中信顕
男子：個人	400M 自由形 佐藤匠
女子：個人	400M 自由形 佐藤匠
男子：個人	200M 自由形 加藤柚香
女子：個人	200M 自由形 加藤柚香
男子：個人	100M 自由形 薄園香
女子：個人	100M 自由形 薄園香
男子：個人	50M バタフライ 自由形 薄園香
女子：個人	50M バタフライ 自由形 薄園香
男子：個人	400M 個人メドレー 三瓶真琴（4位）
女子：個人	400M 個人メドレー 三瓶真琴
男子：個人	福島県高等学校新入体育大会 8位 内入党者
女子：個人	福島県高等学校新入体育大会 400M 自由形 三瓶悠斗（6位）
女子：個人	女子：個人

●文化部	吹奏楽部	東日本大震災復興祈念 東高校合唱部・吹奏楽部 チヤ リティーコンサート (7月22日、福島市音楽堂)	磐梯山：男子2パーティー (3年生2名、2年生2名、 1年生4名) 参加 第57回福島県高等学校登山大会 会津駒ヶ岳：男子1パーティー (2年生2名、1年生2名) 参加 夏山合宿(8月8日～12日) 北アルプス：檜ヶ岳 西鎌屋 根双六岳縦走(2年生1名) 1年生4名参加 第19回県北地区高等学校新人 登山大会	山 岳 部
書 道 部	合 唱 部	東日本大震災復興祈念 東高校合唱部・吹奏楽部 チヤ リティーコンサート (7月22日、福島市音楽堂)	西吾妻山系：男子1パーティー (2年生1名、1年生4名) 参加 福島東高等学校ダンス部第5 回発表会(7月22日、福島テ ルサ・FTホール)	ダンス 部
個人賞 銀河賞 2年 3年	紺野杏奈 菊地里美 第56回福島県たなばた展			第25回県北地区高等学校登山大会 大會
			薄園香(5位) 三瓶真琴(5位)	400M個人メドレー 50M自由形

生徒会

平成23年度(30期生)
部活動を終えて

生徒会に入つてからの年は、仕事を覚えるのに必死で、先輩の方の背中をずっと追いかけていました。そんな私が会長に立候補することになり、選挙の時は

六月十三日 その日は引退式
私は高校生活最後の「矢」を射つ
その時の結果は、「皆中」
(四本中四本当たること) であつた
（あとの快感は引退したこと）でも忘れない。しかし、高校最
後のインターハイではつらい思
いの連続だつた。試合当日、最
後の試合であるというアレッシャー
からか三年男子は皆、普段の
実力とは程遠い射行（きょうしや）
だつた。私は恐れていた。弓道
生活が終わつてしまふのではなく
いかと。しかし戦士たちは泥くさ
さくも必死にくらいつき、決して
戦いを捨てようとはしなかつた。
其もがあきらめようとしない
なかつた。だが、僕も私を倒す
の戦いは幕を下ろした。しかし、
東の女は強かつた。彼女らの勢
いは誰も止められない。そう、
全国の舞台へまつしぐら。そし
て彼女たちは美しく可憐に戦い
その名を全国に知らしめた。女
子と男子の結果は月とすっぽん、

心臓が口から飛び出そうなくらい緊張しました。会長になれた時に行事を運営してきたように私はできるのかという不安がありました。行事が近づいてくる度に、そういう不安や何か問題が起きてしまわないかという心配で押しつぶされそうになつていました。支えてくれたのは生徒会の仲間や、応援してくれた先輩や後輩、同級生の皆さん、そして先生方でした。一人で行事を造ることはできませんでした。でもみんなで造ればばらしい行事にならう。私は生徒会の活動を通して生徒会の活動を改めてそう感じました。今、一绪にいる仲間に出会えたことは奇跡です。その仲間と共に造り上げてきただ行事はどれも私の大切な思い出です。そんな仲間に出会わせてくれた東高に、そしていろんな経験をさせてくれた生徒会に感謝しています。

弓道部

私は剣道部での経験の中で、仲間の大切さということを学びました。先輩の三年生が引退し、私は中心となつてチームを引っ張つていくことになる。どこかチームがまとまらず、何となく練習をしているという雰囲気が感じられました。新人戦では県大会出場も出来ず、「のままではいけないと想い、チーム全体が一つになるように努力しました。時にはお互の感情がぶつかり合つた時、部を辞めたいつてしまふ部員もいたりしました。このような苦難や厳しい練習を乗り越えていつた時、チームが一つにまとまつたと感じることが出来ました。私は一人ではチームをまとめ上げること

正しく持ち、今自分は何をすべきかを判断する能力も身に付けることが出来ました。高校三年間の陸上で得たことを社会に出でてからも活かしていきたいと思っています。（児山満寿胤）

陸上競技部

でもみんなかんばることに意味がある。そのがんばりが後輩たちの次の「矢」につながる。

三十期ハンドボール部は「初心者軍団」である。にも関わらず、皆上達が早くくとも初心者は思えないほどうまくなつた。新人戦では四強に残ることができた。最終的な結果は不甲斐なく終わってしまったが、チームとしては最高だった、と今思う。夏は暑い中での二部練習。冬場は寒い中でのトレーニング。遠征や練習試合もたくさん行つた。つらいときも嬉しいときも側に

活動を盛り上げようと努力して貰ったので、個人競技でありながらも全体の団結力を高めることが出来ました。三年最後のことですが、原発の影響で満足に練習することもできず、くやしい結果に終わってしまいましたが三年間の部活動で得たものが多かったので、未練なく引退できました。今の一一年生は、プールも使えず大変だと思いますが、今できる事を精一杯頑張つてほしいと思います。(笠 眞樹)

水泳部

などできなかつたと
チームの皆がいたからこそ一つ
になれたのだと思ふ。しかし
感じ、改めて仲間の大切さを実
感しました。このようなチーム
の皆と高校三年間の思い出を作
れたりことを、これから的人生の
誇りにしていきたいと思います。

女子バレー部

トコーンデイションの方々が何かをして不^{トコーンバーの先輩方が何かをして不}なかつたインターハイの県大会で試合に臨んで接戦の末、ライバル白河高校に負けとても悔しい思いをしました。その日から打倒白河ですが、なんばつてきましたが最後まで勝つことができませんでした。先輩方に申し訳ない気持ちと何より自分の力不足に情けなさを感じました。

仲間と汗を流し涙あり笑いありの二年間楽しく過ごすことができました。いろいろな部活での経験を今後の人生に生かしていきたいと思います。最後に指導してくれた先生方たくさんの応援をしてくださった保護者の方々ありがとうございました。(折笠和生)

男子バレーボール部

次は受験。部員全員、第一志望校合格を目指します！

自分がこの三年間卓球部をやり続けてきていた感じたのは、この三年間、楽しい事や苦しい事が数え切れない程たくさんありました。結局、勉強や大会などでそういう気持ちが強くなったり、やる気にならなくなったり、部活を引退してからは勉強の日々になりましたが、今の所止めてみたいと思つた事はあります。その事に驚きながらもふと考へてみると部活での一年間の経験が、自信と継続する事の慣れとなつて自分を後押ししているのではないかと思うようになります。そして、今になつてあの時辞めなくてよかつたとしみじみを感じられました。また、自分がもう一つ感じたのは、達成感です。幾度かのいざこざがありましたが、最後には満足してすつきりして終えられたので、受験もこんな風に後悔されなくすつきりと終えられ

でも目標を達成することはできず。自分達の力のなさを痛感します。それから私たちちは、その悔しさをバネにひたすら努力をし続けました。

そして私たち三年生は最後の大会を迎えました。地区大会での目標のベスト3は達成することはできませんでしたが、県大会の目標であつたベスト8は達成することができました。その時私達はとても大きな喜びと達成感を感じることができました。私は三年間女子バレーボール部で活動することでたくさんの仲間と出会い、目標に向かつて努力することの大切さや努力をすれば目標を達成することができるということを学ぶことができました。最後に、中村先生をはじめ保護者の方、私たちを支えてくださった多くの方々、本当にありがとうございました。

ソ
フトボーラ部

最近、自分がソフトボール部に入部するのは運命だったのか、そう思う時があります。新入生の時、父の影響もあり、ソフトボール部に入部することに悩みはありませんでした。人との関係もあって一年生から公式戦に出席した私ですが、二年生の時はチームに迷惑をかけ続ける日々が続きました。そんな私にチームメートは気軽に接してくれました。

迎えた最終学年、私は主将として、また、「一番打者」としてチームを引っ張りました。全国大会には進めませんでしたが、充実した三年間を過ごすことができました。

私は、ソフトボールを通じて「人と人のつながり」を強く感じました。御指導してくださった先生方、チームメートはもちろん他校のソフトボール部の選手達。私は、彼らの存在があつてこそ今の私があると思います。ソフトボールを通して彼らに出会うことはやはり運命だったのかもしれません。（安達 健人）

勉強に部活にはげんだ二年と少し、思うことは色々あるにしても、今まで過ごしてきたそれはほぼ、部活動が中心であつたと思います。

くまさんや力士さんみたいでっこい人やつぽな人やすこぐ力が強い人や自分よりおそらく強いであろう人達と戦つてきました。僕も少しは強くなれたかなと思うけど、やはり内容（なまみ）は僕のままでした。

そうは言つても、県大会終了後の部長の引き継ぎの際には、（部員は少ないのだけれども）歴史を感じると共にこれからも続くであろう我が家柔道部に思いました。

る様頑張ります。（菅野伸揮）

女子バドミントン部

女子バドミントン部

ですが日曜の部活終了後に体育館に入れて少しシャトルを打てるその時間がとても楽しみでした。先輩が引退したら体育館に入るのが当たり前になり、シャトルを打つ喜びを忘れていました。最後に、バドミントンとバトミントンは違いますよ。（齋藤涼）

男子バドミントン部

そして、片平先生が十年連続で行なう計録を伸ばしてほしいと思います。

終わりに赤ペンが無くなつて初めて赤ペンの大さに気がつくようすに部活も終えて初めてその生活における比重の大きさに気が付くのでありました。

(阿部 裕樹)

男子テニス部

の学校と比べても、練習をするのに良い環境とは言い難かった。でも、毎日私たちをサポートしてくれた富良謝先生、信郎先生、そして先輩方、可愛い後輩たち、まつて笑つな、いつも気が付けば中で一番長く過ごした三年間。十人の存在は私にとって何にも変えられない大切な宝物。みんなに楽しい高校生活はなかつただろう。バドを選んで本当に良かった。かけがえのない仲間によ出会えたこと、私は幸せ以外何もないと。そして、この出会いをくれたバドに、ありがとう。

サ
ツ
カ
ー
部

いう三文字が頭に浮かんできます。テニス部は学年関係なく仲が良く、とても楽しい部活でした。一方で、毎日の厳しい練習と、毎週のうちにいる遠征や大会で部活動が苦になることがあります。しばありました。しかし、その度に部員同士支え合い、または自分の負けん気で背中を押されながら、必死になつて練習を重ねてきました。その結果が、団体戦で相手がジュニア出身の人ばかりの中での全国大会出場、県では常に上位入賞という結果が残せたのだと思います。

しかし、このような活躍は自分たちだけでは出来れないからそのため事実です。いくら実力を付けても、家族や先生方のサポートがなければ、みんなに必死に取り組むことも、大会等に参加することもできませんでした。インハイ出場という形での恩返しはできませんでしたが、今後も活躍で少しずつ返していきたいと思います。今までありがとうございました。

男子バスケットボール部

高!! 最後に、福島東高野球部、星（渡辺友樹

野球部

東高サッカー部三十期は最高です。フレフレ東!! (加納直)

ダンス部

ダンス部で過ごした日々は、本当に充実したものでした。

こを得られた多くの経験を自分たちの自信に変えて、これからも目の前のことを見直す一生懸命頑張っていきたいです。（大槻 梨奈）

辛い練習は逃げ出したがつたです。しかし、周りの仲間も同じ気持ちだと思うと頑張れました。時には仲間の頑張りに刺激されやる気が出たりもしました。遠征や合宿では衣食住を共にしました。こうやって毎日一緒に頑張ってきた仲間と目標の結果を残すことはできなかつたけれど、チームが一つになつて試合ができたときは本当に嬉しかつたです。また、常に自分たちに目を向け成長させてくれた先生方に感謝したいです。

三年間おもいっきりやつたから

すれ違いも生じ、うまくいかない事もあつたが、乗り越えることで、進歩できた。

新人戦では、県大会一回戦で田村高校に負けた。だが、東高らしさが見られ以前とは明らかに違つて意識を高く練習に取り組むことができた。

最後の大会、県北大会ではベスト4、県大会ではベスト8になれた。特に最後の試合となつた田村高校との試合は決して忘れるものない試合になつた。十七点差で後半を迎えたが、チーム一丸となり、死守の信念で戦に臨むことで、遂に逆転した。最終的には負けてしまつたが、今までで、最高の試合だった。

女子バスケットボール部

う間の二年半でした。中学生といふ頃所属していた運動部とは一転、何か新しいことに挑戦してみました。いふう思ひで合唱部に入部しました。初めての経験に戸惑うことばかりでしたが、私がこうして部長という役職をやり遂げることができたのも、いつも親身になつて悩みを聞いて下さった星先生の支えや、憧れであつた先輩方の存在、そして、今はぶつかり合いながらも共に支え合つてきた大切な仲間の存在がありましたからです。その仲間と共に、受験への焦りや曲の完成度に対する不安の中挑んだ東北大会では、二年連続となる「金賞」を受賞することができました。そこには二年半部活動を続けてきたことへの達成感や、「全国大会出場を逃した悔いの念」がありました。来年こそ、東高校の門の前に「合唱部全国大会出場」

う思えるのは、良い仲間に恵まされたからだと思います。楽しいことも、苦しいことも、悔しいこともあります。私は部長として間違った方向に進んだ時は、正してくれました。そしてみんなダンス部が好きで毎日一生懸命でした。

そんな仲間達と迎えた高校最後のライブは大成功を収めることができました。震災の影響で計画に大きなズレが生じる中でも、みんな着実に自分のすべきことをこなしていました。結束もより強まっていました。部員の誰一人が欠けてもライブの成功はなかつたと思います。ダンス部の仲間と、その仲間と過ごした時間は一生大切にしたい宝物です。

今年の三年生とは、本当に同じ世代で活動てきてよかったですと思っています。後輩にも恵まれました。頼りない部長についてきてくれた後輩、支えてくれた三年生には本当に感謝しています。ありがとうございました！

合唱部

私がこの英語部に入つた時、ここはまだ英語同好会でした。少ない部員に少ない活動時間、部費もないでした。そんな中、私たちちは楽しみながらも真剣に各自の英会話能力を上げてきました。また二年生になつてからは、初めての研修旅行、A.L.T.の先生の交代、クリスマスパーティーに調理実習など様々な行事を通して、他国の文化を学びました。そんな私たちの活動が

また、今年は、原発事故があつたということで、先生から機械を借りて校地内の放射線測定を行いました。あまり線量は高くなかつたことが分かったので良かったと思ひます。

僕たちは、科学部で充実した日々を送ることができました。本当に楽しかつたです。顧問の清水先生にはたくさんの協力をありがとうございました。ありがとうございました。
(松浦 泰祐)

僕たち科学部は三十期生の十二人で活動して下さいました。去年は残念ながら三一期生が人も入部せず、休部の心配を免てましたが、今年は八人も参加してくれたので休部の危機は免れ、ひと安心しました。

科学部の部員は、個性的でマニアックな人たちで、一緒にいて、とても楽しかったです。その反面、普段はあまりまとまりがないませんでした。しかし、毎年夏に行く河川の水質調査、一生徒理科研究発表会の準備では一致団結して、満足のいく発表ができたと思います。やるときはやる部です。

また、今年は、原発事故があつ

科
學部

の文字が掲げられるよう後に書に託したいと思います。三十期合唱部のみんな、来年全国大会出場になつたらみんなで鹿児島まで応援しに行こうね！（笑）

吹奏樂部

吹奏楽部

昨年も残念ながら東北大会へは行けず、その夢は二〇一一年僕たちの代へ受け継がれた。各の大会であるアンコンでは、どのチームも悔いの残る演奏・結果に終わり、定期演奏会の成功と東北大会への出場、という新

か、その思いは
いただろうか。

(紺野 杏奈)

様々な展覧会への出品や講集会への参加、研修旅行などの活動をしてきた。また、私たちは、書道甲子園に感動し、自分たちができる書道をしてみたいと思い書道パフォーマンスを新たに始めた。書道パフォーマンスは、何を伝えたいのかを考え、文や文字の大きさ、配色、曲、動きなど、苦労しながらも、すべて自分たちで決めた。今年の文化祭での、パフォーマンスのテーマは、「震災を乗り越え、未辛に向かって歩き出そう」だつたが、その思いは、みんなさんに届いただろか。(紺野杏奈)

書道部

認められたのか三年の春、念願の部に昇格できるようになりました。英語同好会は英語部に生まれ変わり、二年生への良いトンパスができました。

私がこの英語部で過ごした約一年間は、活動時間はそんなにはありませんでした。その分中身がつまつた大変充実した日々でした。卒業してからは、これまでの思い出を胸に、より国際的に生きていきたいと思います。

応援プラスバンド部

応援プラスバンド部の主な活動は野球部の応援です。夏の炎天下で楽器を吹き続けることは想像以上に大変ですが、その分やりがいも大きく、野球部の勝利は何よりも嬉しい感じます。私が入部した当初は、応援団と連係して応援を行つていきました。しかし、二年の春に応援団がなくなり、夏には先輩が引退されましたため、部員が四人になりました。今までとは違う状況に戸惑いながらも、対応できるようになり、練習に励みました。三月の震災で思うように活動ができず不安な時期もありましたが、プラスバンド部が再建され、新入部員が加わり、活気ある応援ができました。三年間プラスバンド部に所属し、活動した中でたくさんのこと学ぶことができました。後輩達には、東高を盛り上げられるような応援を目指して、様々な挑戦して欲しいと思います。

いた。そんな中起きた東日本大震災。ホールの損傷がひどいために演奏会は中止された。演奏の機会を失い、かなりショックだった。しかし、合唱部のみなさんとの協力により、合同でチャリティーコンサートを開くことができた。改めて、合唱部のみなさん、本当にありがとうございました。

県北大会は目標である「コンクール」。県北大会はなんとか通過。ユーラップ熱海で行われる県大会へと出場。県大会当日は、僕のミスによるアクシデントやトラブルがあつたが、力を出し切れた人も多く、良かったと思う。結果は金賞。しかし、東北大会へは行けず…。来年こそ東北大会以上に進んでほしいと思う。

平成23年度 転出者

職名	氏名	転出先
校長	平岩典男	会津高校
教諭	阿部健一郎	退職
教諭	根津志功	福島明成高校
教諭	斎藤毅	福島北高校
教諭	樋口文子	大笹生養護学校
教諭	佐久間聰	保原高校
教諭	矢澤和美	保原高校
教諭	清水早苗	石川高校
実習教諭	片桐麗子	退職
常勤講師	久保田慎一	退職
常勤講師	斎藤直人	退職
常勤講師	渡部明美	退職
常勤講師	池田政人	退職
常勤講師	山口尚之	退職
常勤講師	新妻尉善男	退職
月手当講師	渡辺康一	退職
時間講師	飯沼昭宣	退職
時間講師	原田寿江子	退職
事務長	金澤治	退職
主任用務員	菅野勝彦	川俣高校

平成23年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
校長	田村秀夫	遠野高校	
教諭	草野智教	新採用	地歴公民
教諭	村上英夫	橘高校	英語
教諭	松本仁子	橘高校	理科
教諭	渋川恭子	安達高校	英語
教諭	柳橋幸裕	教育センター	理科
教諭	クームズ茂子	塙工業高校	英語
教諭	高梨卓哉	いわき翠の杜高校	数学
実習教諭	三浦和子	保原高校	
常勤講師	久保田慎一	継続	地歴公民
常勤講師	川崎彰子		理科
常勤講師	池田政人	継続	数学
常勤講師	鈴木博幸		地歴公民
常勤講師	志村龍也		数学
月手当講師	佐藤惠治		英語
時間講師	渡邊憲一		理科
時間講師	須田美和子		保健体育
事務長	飯野俊	郡山北工業高校	
主任用務員	吉成啓	福島商業高校	

平成23年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	期生	氏名	期生
朽木理美	26期	小阪周諭	27期
橋本宏貴	26期	齋藤有季	26期
矢吹龍介	25期	中澤和也	27期
阿部翔一	26期	高田沙保里	27期
菅野由香	26期	安齋祐紀	25期
佐藤越萌	26期	大河内琢磨	26期
戸田進一	26期	藤岡友恵	26期
大原優	26期		

夏の辞令
村上英夫

学校全体のあらゆるシステムが立ち上がりまさにトップスピードで走り始めた時に、途中からメンバーとして加わる事となりました。大地震と津波の被害は尽大で、福島県全体の教育行政をも大きく揺るがせた影響によるものだとはいえ、目の前の生徒たちに不利益となるようなこちななことは一切あつてはならないという思いで赴任しました。

それでも、学校組織全体のアクティブラーニングな動きをフォローするだけで精一杯で、年一度も半分以上過ぎようという時期になつても、なかなか組織に貢献できない歯がゆさを感じます。しかし、それこそアクティブでパワフルな生徒たちから元気をもらい、日々、エネルギーと勇気を充てんされつつ、ようやく前後左右の視界が開けて、やつと学校の戦力になれそうな気がします。どうぞ宜しくお願いいいたします。

今年度は三月十一日の大震災、原発事故により色々なことを考えさせられる一年でした。

一つは、自然の前で人はあまりにも無力であり、人の奢った認識を改めさせられたことです。今回起ったことは今までに経験したことのないほどの大地震とはいえ、予想は完全に外れ、大惨事につながりました。特に原子力発電所の地震対策は甘かつたと言わざるを得ないでしよう。我々は原子力の危険を世界中のどの国よりも細心の注意を払い、このような大地震に備えなければならなかつたはずです。唯一の原子力爆弾の被爆國として、にもかかわらず、このよくな事態になってしまったのです。我々は利便性などの科学の恩恵を受けるために、本当に慎重に考えなければならぬ安全面に対して目をつむつてしまつていていたのかもしれません。誰がというわけではなく、国民の一人一人が心のどこかにそうした考え方があったのだと

そして、たることは、前述した人の無力さと同時に人の力の偉しさです。う。神戸・淡路大地震災の時もそうでしたが、日本だけではなく世界中の人々からの善意の力です。ボランティアや救援物資、そして暖かいメッセージ。一人一人の力は微力かもしませんが、それが一つになった時のエネルギーの膨大さは計りしづれ、被災地の復旧に大きな役割を果たしてくれました。感謝してもしきれなほどです。お金や物だけではなく

してまた前を向いて歩いて歩いて行くのです。私は人のその矛盾した力にこそ魅力があると思いつつ、それこそが人であると思ひます。何の失敗もしない完璧な人より、間違いや失敗をして傷つき倒れながら立ち上がり前を向いて歩みを止めない、そんな魅力ある人に福島東高校の生徒たちにはなってほしいと思います。最後に震災により犠牲になつた多くの魂に哀悼の意を表して編集後記とします。

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかることがあるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意をして下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。

東高の電話番号は 024-531-1551 です。

福島東高校HP ► <http://www.fukushima-higashi-h.fks.ed.jp/>